

今年も残り少なくなりましたが、差別をなくする強調月間の11～12月に多くの学びがありました。

1 平成30年度校内人権教育講演会「共に生きる社会の実現を目指して」12月10日(月)

世界人権デーに、地元の土居町で長年差別解消のためにご尽力されている江口久さんの講演会を開催し、PTAからもご参加いただきました。江口さんは、母親のイトさんが戦後の生活が苦しい時代に地域の子どもたちの教育にと立ち上げた「子ども会」を共に支えながら成長されました。以後、就職、結婚の際にも差別に直面しながら、母・イトさんや徹子夫人と共に「差別的な冷たい社会を変えたい」一念で、長年国内を駆け回っての講演など心の在り方を問う啓発活動に取り組み、人権意識の高揚に素晴らしい成果を挙げられています。講演後の座談会では2年生有志が江口さんの熱いメッセージに応え、積極的に意見発表を行いました。



3年生

・自分が生まれた場所がたまたま勝手に決められた部落だったという理由だけで、就職や結婚などの人生で大事なこともすべて嫌なことで覆いつくされるのはとても辛く厳しいことです。それらを乗り越えて、沢山の人の前で話をされている江口さんはかっこいい、とても尊敬できます。差別がなくなるよう自分も行動していきたいです。

・「DVDを見て、差別されている人を、かわいそうだと思わないで下さい。」という言葉が心に残っています。他人事と思うのではなく、その人たちの立場に立ち、同じ目線で考えてみることは大切だと改めて思うことができました。こういう学習の場があることにより、様々な差別が減っており、少しずつ成長出来ると思います。

2年生

・追いかけてくる差別から逃げるのをやめ立ち向かうことを決めたのはすごく勇気のいることだと思い、いとさんや久さんの行動を無駄にしてはいけないと思いました。自分が正しいと思ったことは行動に移し、差別を無くすために「信念をもって」生きなければいけないと思います。

1年生

・部落差別は、その人の本当の姿を見ようとせず、生まれた場所だけで差別する腹が立つ行為ですが、それを怒りで返さない江口さんの心の強さに考え直されました。もし、身近に差別が起こった時に、怒りをぶつけるのではなく、差別者の人格を否定するのではなく、考え方を否定し、正しいことを伝えていくことが大事で、私にもできることだと思う。

2 「平成30年度愛媛県人権・同和教育研究大会」11月8日(木) ひめぎんホール

世界人権宣言から70年、愛媛県人権教育協議会創立50年の節目に、部落差別解消をめざす動画メッセージの代表作品が上映されました。近年、部落差別解消法が成立した背景として、差別を広める地名総監で金儲けを企てる者・差別的なサイトや街頭活動で偏見を植え付ける者の増加があり、差別が被害者を黙らせてしまう実態があったからです。今大会では、大洲市人権啓発課製作の「おおずのじんけんばなし」により、成立した法律によって実態調査が進み、相談できる体制づくりが進められ差別解消を図っていることがわかりました。

